

# 令和5年 新春特別講演会

日 時：令和5年1月27日（金）16時00分から17時15分まで  
会 場：ヴィアーレ大阪 「クリスタルルーム」  
参加者：60名（ご来賓及び工業会の会員）  
講 師：太田泰造氏（錦城護謨株式会社 代表取締役）  
演 題：「老舗 B to B 企業のチャレンジ」



新年賀詞交歓会に先立ち、恒例の新春特別講演会を開催致しました。お忙しい中にもかかわらず、御来賓と工業会の会員から60名の方にご参加頂きました。



太田氏は年齢 50 歳、フォーブス JAPAN『2021 年今年の顔 100 人』に選出された新進気鋭の若手社長です。

錦城護謨株式会社様（大阪府八尾市）は昭和 11 年創業、主にゴム製品を製造する中小企業です。会社名の錦城（きんじょう）は大阪城の別名、護謨（ゴム）は漢字でこのように書きます。

錦城護謨株式会社様の事業は 3 事業あり、ゴム事業（64%）、土木事業（35%）、福祉事業（1%）福祉は新規事業とのことです。

主力のゴム事業は完成品メーカーへゴム部品を製造して納入しています。例として炊飯器のパッキン（国内のシェア 50%）、スイミングキャップやゴーグル（ミスノ）、自転車のブレーキシュー（シマノ）など年間 5,000 種類のゴム製品を製造しているそうです。

土木事業は全国の埋立地や工業用地、道路、宅地を作っています。当初はゴムの土木資材を製造し、後に土地の強度を上げる材料としてゴムの成型技術を活用してプラスチックの成型に転用して土木事業に進出されました。プラスチックの材料を軟弱地盤に打ち込んで強度を上げる地盤改良方法です。実績として羽田空港、中部国際空港、北九州空港、そして 2025 年大阪関西万博の夢洲会場にもこれら技術を使って地盤改良をして土地を作っています。万博へ行かれた際は錦城護謨が作った土地の上を歩いて頂くとのことです。また豊洲市場では地盤が汚染されていたので地盤の浄化にも取り組まれたそうです。

（ここからはご講演内容を要約して記載致します。）

## 【チャレンジ（その 1） 福祉事業】

福祉事業にチャレンジしています。点字ブロックはご存じと思いますが、視覚障害者にとって必要な物ですがこれにも問題点があります。車椅子やベビーカーなどにとっては逆に障害となります。特に屋内ではバリアフリー化のために点字ブロックは殆ど設置されていません。そこで考えて開発したのがゴム製の誘導マットです。段差をつけないで歩いた時の感触や白杖の打音や質感の違いを出して誘導するマットを開発しました。



色々な賞を頂きましたが、世界的に権威のある『IF デザイン賞金賞』も受賞致しました。東京パラリンピックの会場や空港、大学、役所、病院、商業施設など約 1,000 か所に導入して頂いております。福祉事業への参入はものすごく大変です。しかし社会的な意義が大きいので今後もチャレンジをしていきます。

### 【チャレンジ（その2） グラス開発】

錦城護謨のゴム部品は大手有名企業へ納入していますが守秘義務があるため知られていません。“これが錦城護謨製品”だというものを作りたいという思いでゴム製グラスを開発しました。独自開発には費用がかかります。特に金型は高価です。顧客向けの BtoB とは事情が違います。開発費をどのように捻出するか。そこでクラウドファンディングの Makuake（マクアケ）を利用する方法を取り、結果 400 人以上の方が協力（購入）して頂きました。苦労は多々ありましたがゴム製グラス開発はもの作り企業の存在意義、従業員の働く意欲にも繋がり取り組んで大変良かったです。更にこれまで必要がなかった広報活動にも力を入れました。ホームページ、各 SNS、展示会、ポップアップストア、TV、新聞、雑誌などメディアへも積極的に活動しました。



### 【チャレンジ（その3） 地域取り組み】

「みせるばやお」をご存じでしょうか。「ものづくり体験ワークショップ」を通じて、子どもたちをはじめ来場者が楽しみながら、地元企業の魅力を知ることができる施設です。またファクトリズム活動として地域の工場を見学して子供が楽しめるプログラムを実施しています。錦城護謨ではシリコン粘土の体験を実施しています。2025 年万博に行かなくてもリアルに工場見学が出来て、ものづくりに触れることが出来ればそれは万博のサテライト会場になり得ます。

まとめになりますが、企業は売上げの為、社員はお金の為にだけに働くのではなく、社会に価値、意義を感じて頂くことが大事と考えます。家庭内で仕事の自慢や会話ができることは良いことです。

皆さんの会社がやりたいこと、社員がやりたいことがあれば後押しして下さい。錦城護謨だから出来た、ではなくチャレンジしてみることが大事です。

